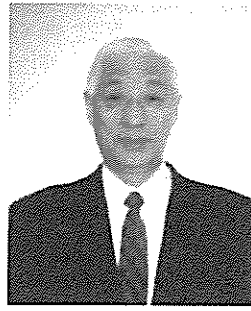


ふくしま県人会をより

第 11 号
平成 17 年 1 月
福島県人会
北海道連合会

新年のごあいさつ

会長 長谷川 顕



新年あけましておめでとうございます。
います。

県人会の皆様にかかれましては、
輝きに満ちた新年を迎えられました
ことと推察し、お慶びを申し上げます。

さて、昨年を省みて五月には佐藤
知事ご夫妻のご臨席を賜り、層雲峡
温泉に於いて、北海道連合会総会を
旭川県人会の皆様のご尽力により、
盛大かつ有意義に開催できましたこ
とに敬意を表し、厚くお礼を申し上
げます。

また、十月には三年に一度の母県
訪問があり、参加者全員で県庁に赴

き佐藤知事を表敬訪問し、県政の報
告等を頂き、大変有意義な時間を過
ごさせていただきました。その日の
午後は、全国福島県人会の連携を強
め横のつながりを図るべく「全国う
つくしま県人会交流会」が各地区代
表が出席し、福島市の杉妻会館にお
いて開催されました。交流会では、
各県人会の活動報告等があり、活発
な意見を交換し、今後四年に一度会
合を持ち発展を期したいとの発案が
出され、北海道としては持ち帰り検
討課題とし、諸々の討論を交わし、
盛会裡に無事終了いたしました。な
お、交流会には別海町の菅野会長、
札幌の菅野会長、旭川の高橋副会長
と私、そして事務局の津田次長の五
名が出席しました。

当日は夕方から台風の影響を受け
豪雨と強風にもかかわらず、北海道
県事務所勤務された皆様方と夕食
を共にし、杯を酌み交わし懐古談に
花を咲かせながら一時を楽しませて
いただきました。大変ありがとうございました。

昨年は好天に恵まれ農産物果実類
は豊作との報道がありました。が、相
次ぐ台風の影響を受け被害がことの
ほか多いとの報道に愕然としたもの
です。

そのようなおり新潟県では地震が
発生し、多くの人命が失われたほか
甚大な被害を被りました。又、その
後の豪雨による家屋の倒壊等、目に
余る惨事に心痛の極みです。一日も
早い復興を祈念いたします。

最後になりますが、本年は稚内県
人会の幹事により五月に北海道連合
会総会の開催が決定しており、多数
の会員の出席を心待ちにしておりま
す。北海道の寒さはこれから一段と
厳しくなります。くれぐれも健康に
は留意され、又の再会を楽しみにし
ております。

新年のごあいさつ

福島県知事 佐藤 栄佐久



新しい年の初めに当たり、福島県
人会北海道連合会の皆様の御多幸を
心からお祈り申し上げます。

皆様の県人会が、昭和四十八年の
結成以来、会員相互の絆を深められ
着実に発展を続けておられますこと
は誠に喜ばしい限りであり、役員の方
々並びに会員の皆様のご尽力と御
熱意に深く敬意を表します。また、
福島県と北海道との架け橋として、
日ごろふるさと福島県に対し格別の
御支援をいただいておりますことに、
厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年の福島県におきまして
は、景気は依然として厳しさを残して
たものの、二〇〇九年フリースタイ
ルスキー世界選手権の開催決定や、
Jヴィレッジを拠点として世界に通
用するサッカー人材育成プログラムの
実施決定、さらには、工場立地件
数の増加、犯罪・交通事故死者数の
減少など、県民生活の安定と今後の
地域振興に弾みがつく嬉しい話題が
相次ぎました。

一方、我が国は今、従来の考え方
では対処できない変革期にあり、「三
位一体の改革」に見られるように、
今後の自治体のあり方についても大
規模な枠組みの転換が求められてお
ります。

このため、今後の県政運営に当た

つては、「真の分権型社会の実現」「共生の論理に導かれた社会の実現」などを基本理念に、今年は特に「少子化対策の推進」、「地域経済の再生」、「過疎・中山間地域の振興」、「いのち・人権・人格を尊重する社会の形成」及び「循環型社会の形成」の五分野について、より優先的な取り組みを進めてまいります。

また、北海道との交流につきましては、昨年、会津大学において初の交流シンポジウムを開催したところですが、本年は猪苗代湖及び支笏湖流域住民等の交流を進めるなど、さらに連携を深めてまいりたいと考えています。

厳しい社会経済情勢ではありませんが、今こそ、県民とともに本当の豊かさが実感できる地域社会の実現に向けて、着実に歩みを進めてまいりたいと考えていますので、どうか皆様におかれましては、一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、福島県人会北海道連合会の限らない発展と、会員の皆様今年一年の御健勝、御活躍をお祈りいたしまして、新年のごあいさつをいたします。

会員通信

「苦小牧市と会津若松市との
経済交流都市の実現に向けて」

苦小牧福島県人会副会長

神野修

戊辰戦争での会津藩の戦いぶり
は、とくに「白虎隊少年隊士」の自
刃の悲しい物語りや白虎寄合一番隊
原早太隊長率いる藩士達の勇敢な奮
戦のことなど、その戦いの歴史は今
日に至るも語り継がれている。

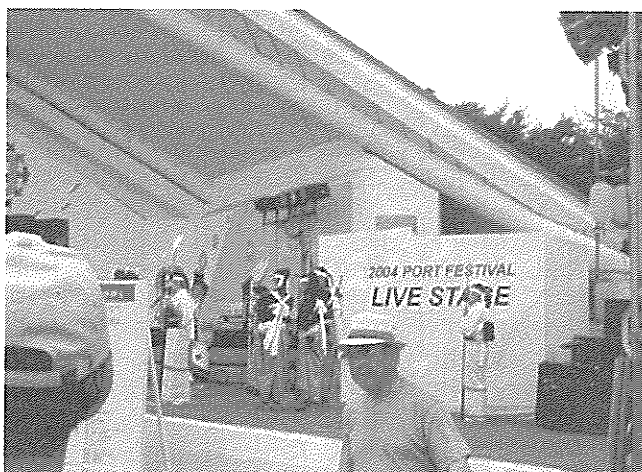
徳川幕府の大政奉還で明治政府に
なり、北海道開拓使が開かれ、原早
太隊長の二男直次郎は故郷会津若松
市を離れて開拓使の官吏として函館
に移住、明治二十一年に開拓使から
代わった北海道庁吏員として苦小牧
に着任したが、苦小牧に愛着を覚え
て官吏を辞し苦小牧に定住、経済・
漁業・農業・教育の各界各分野で先
駆的貢献をし、又村議会議員として
地方自治にも力を発揮して苦小牧発
展の礎となり、その人生を第二の故
郷苦小牧に捧げ、その霊は今も静か
に苦小牧の霊園に眠っている。村議



会議員の現職で直次郎行年五十八
才。

直次郎は、父早太はじめ会津藩士
が藩主と共に新しい日本創造に馳せ
参じ、心ならずも賊軍の汚名を着せ
られた無念、口惜しさを心に秘めつ
つ、第二の故郷苦小牧の発展の礎と
して命を捧げたのではなからうか。

苦小牧港まつりのポルトカーニバル
に、この六年間に二度、直次郎の
郷里会津若松からミス会津を招き
「白虎隊おどり」で出演、これを機
に苦小牧市と会津若松市の縁も深ま
り、去る日菅家一郎会津若松市長に



直次郎の墓参と両市の経済交流都市
縁組みを要請し、「平成十八年に墓
参に来苦、経済都市の縁組みも進め
る」意向、連絡を受け、更に会津若
松市「ゆかりの土地・人物」として
苦小牧と直次郎をホームページに紹
介したとの連絡のFAX通信があ
った。

「架け橋」生前の直次郎は苦小牧
市と会津若松市を結びつけようとの
思いがあつたのであろうか。われわ
れの時代にその思いを実らせたいと
の取り組みが現実性をおびてきた。

「ほくほくテレビ」に出演して」

札幌福島県人会婦人部長
高橋成子

それは、まだ暑い夏の日事務所の川俣さんからの電話が始まりました。テレビ番組で福島県の郷土料理を作り紹介披露すること、私は簡単にOKの返事をしました。

特色ある物を考え検討した結果、会津地方のお祝いには欠かすことのできない「こづゆ」と福島県がくだもの王国なので「桃のコンポート」などに決まりました。

一度作る課程と試食をしたほうが良いのではと、早速、副会長の寺脇さんに相談いたしましたところ、奥様が遠慮なく台所を開放してくださいました。

試食会には、番組の担当者も小型ビデオ持参で参加、桃のコンポートなどの調理の課程を取材していきましました。

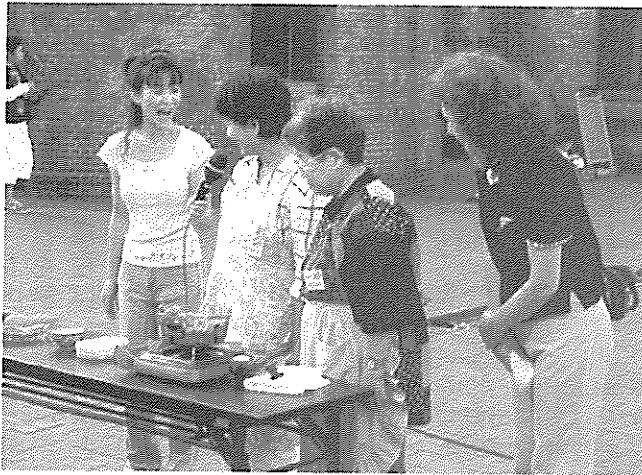
放送前日、必要な料理器具などの点検のため寺脇さんのお宅に向うと、奥様が風邪のため病院とのこと、心配です。

さあ、いよいよ本番当日です。空を見上げると灰色の雲が広がりパラパラと雨が降ってきました。でも会

場に着く頃にはすばらしい青空になり、心配していた奥様も点滴を受け元気に駆けつけて下さいました。

設備が整わず材料を洗うことすら困難な中、風間さんや婦人部、事務所の方々が要領よく料理を並べて下さいました。桃のゼリーは無惨にも暑さで溶け、とても美味しそうには見え、とても残念でした。

キャスターの声で本番が始まり、川俣さんの説明などがありました。私の番です。桃のVTRを見ながら解説、胸の鼓動が高鳴り、足が震えました。



「こづゆ」は会津塗りの器に盛りつけられ完成、大変美味しいとコメントを頂きました。

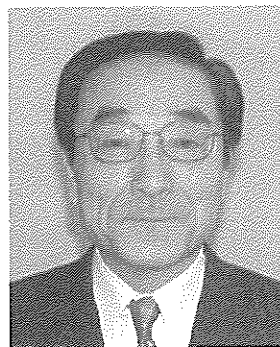
番組は福島ゆかりの踊りや情報など盛り沢山、満面の笑みで無事終了することが出来ました。

何かを作り上げるため、沢山の方々に支えられ大変良い経験をさせて頂き感謝申し上げます。これからも福島県人会のご発展と皆様のご活躍を心からお祈り申し上げます。

OBからのお便り

「北海道と福島県をつなぐ架け橋」

第十四代所長 河野 郷



福島県人会の皆様、明けましておめでとございます。昨年の北海道は、台風やたび重なる地震など大きな災害に見舞われましたが、事務所に問い合わせをしましたところ、幸い皆様方に大きな被害は無かったです。聞きまして、安心したところであります。今年も、何事も無く幸いです。心よりお祈り申し上げます。

北海道事務所での勤務は、平成十二年から三年間でしたが、この間皆様には公私共に大変お世話になり、また楽しく仕事をさせて頂いた。本当にありがとうございます。北海

道から戻りまして二年になろうとしています。印象が鮮明なせいか、そんなに経過したとはとても思えないでおります。

三十六年勤めた福島県を昨年三月に退職し、今は福島県農業会議に勤めております。退職の記念に妻と旅行をしようということになり、旅先を二人で考えたのですが、出た結論は、やっぱり「思い出の北海道をもう一度」ということで、昨年九月にレンタカーで思い出残る場所を楽しく回ってまいりました。

話は変わりますが、私の趣味は版画でありまして、年賀状も版画で出しているのですが、ここ三年は続けて北海道を題材にしてみました。モチーフにしたのは小樽運河、美瑛のPATCHワークの丘、札幌時計台ですが、その中に北海道の美しさや良さを多くの人に知ってほしいという願いを込めたつもりでおります。今年北海道の赤レンガをモチーフにしました。北海道の歴史とともに歩んできた建物の荘厳さに心打たれるものがあったからです。これからも出来るだけ多くの北海道を版画に描き、私の第二の故郷である北海道をPRしていければと考えております。

私が赴任した時はちょうど「うつくしま未来博」が翌年に開催されるという時期でありました。県人会の

皆様をはじめ北海道の多くの方々を未来博に案内し、福島県と北海道をつなぐ架け橋の役を務めたことが思い出されます。現在は「北海道と福島県の交流推進事業」が進められており、昨年七月に第一回の交流会が会津若松市で開催されました。県会の何名かの方々も「ふくしまフレンド」に任命され、交流を深めるための架け橋の役割を担うことになったようでありますので、これを契機に福島県と北海道の交流が今後一層活発化していくよう御期待を申し上げます。と同時に、私も出来るだけのお手伝いをしていきたいと考えております。

それでは、福島県人会北海道連合会の皆様、今後ますますの御活躍を心から祈っております。

新会員紹介

苫小牧福島県人会

- | | |
|----------------|------|
| 瀧場陽一 (たきばよういち) | 小高町 |
| 廣田勝年 (ひろたかつとし) | 福島市 |
| 江井芳郎 (えいひよしろう) | 双葉町 |
| 渡部好治 (わたなべよしじ) | 猪苗代町 |

母県訪問

今年度は三年に一回実施している母県訪問の年でした。今回は、中通りといわき方面へ十月二十日から二泊三日の行程で、二十四名の県人会会員の方と事務局職員二名の二十六名が参加しました。



初日は、まず県庁を訪れ、佐藤知事への表敬訪問を行いました。宿泊は飯坂温泉の「みちのく荘」でした。台風の影響で夕方から暴風雨となりましたが、その日の夜の北海道事務

所OBとの懇親会には、歴代所長をはじめ二十三名もの元職員の方がおいでになり、宴も最高潮に達し、昔話に花が咲きました。とても楽しい懇親会となりました。

二日目は、二本松の菊人形を観たあと、いわき市に向かい、美空ひばりの「みだれ髪」の歌碑がある塩屋崎灯台に寄りました。その後、県が設置した水族館「アクアマリンふくしま」を見学し、いわき市にある温泉を利用した大型レジャーパーク「スバリゾートハワイアンズ」に宿をとりました。宴会を早めに切り上げ、



全員でポリネシアンショーを見て、魅力的なトロピカルムードを十分に味わいました。

最終日はいわき市観光物産センター「いわき・ら・ら・ミュウ」に寄りおみやげを購入した後、郡山市に向かいました。その途中で解団式を行い、郡山駅で約半分の方が解散しました。残りの方は福島空港から帰途につき新千歳空港で解散しました。

今回の母県訪問につきましては、事務局の不手際も多々ありましたが、参加していただいた皆様の御協力により、無事終了することができました。参加いただいた皆様に対し厚く御礼申し上げます。次回はさらに良い企画で計画したいと考えておりますので、より多くの皆様の参加をお願いいたします。

全国うつくしま 県人会交流会

第一回全国うつくしま県人会交流会が十月二十日福島市で開催されました。

全国から九つの福島県人会が参加し、当連合会からは、四名の代表が出席しました。

はじめに、代表者会議があり、各県人会から活動状況の報告があり、北海道からは長谷川会長を皮切りに、菅野別海町会長、菅野札幌会長、高橋旭川副会長が各々報告を行いました。



なお、各県人会の報告の要旨は次のとおりです。

【長谷川北海道連合会会長】
北海道では毎年各地区の県人会が

持ち回りで連合会の総会を開催している。その際、功労者に知事感謝状、連合会長感謝状を贈呈している。また、連合会の会報を年二回発行している。

【菅野別海町県人会会長】
別海町は、人口は一万七千人だが牛は十二万頭いる。連合会の総会に出席するとき前泊しなければならぬといきもある。総会や他の県人会との合同の観楓会の開催など、いろいろな活動をしている。

【菅野札幌県人会会長】
私は移民の三代目である。現在は良くなったが、北海道へ来た先人達はそうではなかった。札幌はそういつた先人達がつくった歴史のある県人会である。現在会員は百二十人ほどいる。総会へ出席するのは四十〜五十人くらいである。

【高橋旭川県人会副会長】
高齢化により会員が減少し、困っている。旭川には連合会に加入していないペーパーン地区県人会があるので、今後合併も考えたい。以前は自衛隊の県人会もあったが当県人会と合併し今はなくなった。今年度は連合会の総会を担当した

【東京】
会員は千二百人いる。各地区に県人会があり、百カ所ほどある。詳しくは、このあとの交流会で話をする。

【東海】
当県人会のエリアは東海三県（愛知、岐阜、三重）である。福島県と東海の橋渡しとして微力ながら尽くしてきた。総会は年一回、役員会は年三回開催している。会員が減少しているので、会員の勧誘に力を入れている。とりわけ女性の方の入会に力を入れている。会員数は三百五十五人である。会報は年一回発行している。ゴルフや旅行をしている。東北六県人会協議会を設置し、他県の県人会と交流している。全国県人会総会も開催しており、三十七県が参加している。

【関西】
昭和三十四年に発足した。会員数が減少している。現在の会員数は三百人くらいである。総会を開催しており、母県訪問も実施している。関西圏では高校の全国大会が多い。野球をはじめ、ラグビーや駅伝など、おのおの激励会を行っている。物産展ではそのたびごとに会員に案内を出している。

【ひろしま】

広島県には福島県人会が福山と広島にある。広島は会員数が八十人で、福山は広島より若干多い。いろいろやっている。親睦の会である。

【沖縄】

昭和五十五年に発足し、会員数は八十五人くらいである。沖縄に住んでいる方は三百四十〜三百五十人いる。ふくしまの塔を年二回清掃している。ちゅらしま交流事業には県人会として積極的に協力したい。



次に、今後の県人会相互の交流の持ち方について協議を行いました。四年に一回程度実施したらどうかとの提案があり、ほとんどの県人会が賛成し、二〇〇八年に東京県人会の幹事で開催することとなりました。北海道は十四県人会の連合会であることから、即答できないので、今後役員会で協議することとなりました。

会議に続いて、佐藤知事をはじめ加藤県議会議長や各都部長等を交えての交流会が開催され、北海道からも会議に出席した代表が参加し、長谷川会長の乾杯の音頭で交流会が始まり、他の県人会との交流を深め、無事終了しました。

母県動向

会津若松市で 伝統的工芸品全国大会開催

平成十六年十一月四日から七日までの四日間、第二十一回伝統的工芸品全国大会が会津若松市で開催されました。

なお、「伝統的工芸品」とは、①普段の生活に使われている物、②手作り、③昔から続く作り方、④昔からの材料、⑤ある地域の大事な産業、この五つの条件を満たしたものを国が指定したものです。

ちなみに福島県では、会津塗、大堀相馬焼、会津本郷焼、奥会津編み組細工の四つが国の指定を受けています。

大会では、伝統の技を持った職人がその華麗な技を見せてくれたほか、ろくろの体験コーナーなどもあり、たくさんの方々がお越しになりました。大会は天候にも恵まれ、歴代二位となる十一万三千人の来場者数となり、無事閉幕しました。

皆さんも普段使っているお椀や湯飲みに福島県の伝統的工芸品を使ってみてはいかがですか。

編集後記

昨年は、台風の上陸数が過去最高を記録し、北海道にも大きな被害を与えました。また、新潟県中越地震が発生するなど、災害の当たり年でしたが、福島県に大きな被害がなく、各県人会の皆様方にも怪我人等が出なかったのは幸いです。

今年こそは明るいニュースが多く、皆様にとつて良い年になることをお祈りいたします。

今年度から始まった北海道と福島県の交流事業も来年度は二年目となります。これからも、各県人会の皆様方には御協力をいただくようになりたいと思います。

(津田)

